

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	移植適応多発性骨髄腫患者における初回採取レジメンによる自家末梢血幹細胞採取不良例の多施設共同後方視的研究
研究責任者	塚田 信弘(血液内科 副部長) 堺田恵美子(千葉大学医学部附属病院 血液内科)
研究機関名	日本赤十字社医療センター、千葉大学医学部附属病院
研究目的と意義	<p><b>【概要及び目的】</b> 移植適応多発性骨髄腫患者において、初回採取レジメンによる自家末梢血幹細胞採取不良例を後方視的に解析することで、その治療成績、特徴、問題点について明らかにすることを目的としています。</p> <p><b>【背景】</b> 移植適応多発性骨髄腫において、自家末梢血幹細胞移植は新規薬剤の時代においても依然として予後に影響する重要な治療です。一方で自家末梢血幹細胞採取が不良に終わる症例も一定数存在し、採取困難症例の割合は新規治療薬による寛解導入療法の出現やプレリキサホルを含め採取方法の選択肢が広がったことにより、時代とともに変化していることが予想されます。本邦における採取困難例の臨床経過を後方視的に検討し、特徴や問題点を検討することは、今後の採取方法の選択やその後の治療選択に際し、重要な情報を提供するものであり、その意義は高いものと考え本研究が計画されました。</p>
研究方法	<p>対象: 調査参加施設において2008年4月1日から2018年9月30日までに自家末梢血幹細胞移植が適応と考えられ初回末梢血幹細胞採取を施行された多発性骨髄腫症例を対象とします。参加施設全体での研究対象者は170例程度(当院においては約20例)と予測しています。</p> <p>研究の方法: 本研究は既存の診療録情報を用いた後ろ向きコホート研究です。初回採取レジメンによる採取不良例を抽出し、同時期の採取良好例と比較検討します。診療録をもとに、患者さんの背景、治療成績、副作用等を解析します。</p> <p>倫理的配慮: 個人情報の保護には十分な配慮を行った上で解析を行います。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方は下記までご連絡下さい。参加を希望されない場合でも不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者: 塚田 信弘 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604</p>